

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：34701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00055

研究課題名（和文）『アムナーヤマンジャリー』梵蔵バイリンガル写本に基づくインド密教注釈文献の研究

研究課題名（英文）A Study of Amnayamanjari based on Sanskrit-Tibetan bilingual Codex

研究代表者

菊谷 竜太（Kikuya, Ryuta）

高野山大学・文学部・准教授（移行）

研究者番号：50526671

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題はアバヤーカーラグプタ（Abhayakaragupta, 11世紀後半～12世紀前半）によって著されたインド密教百科事典的注釈書『アムナーヤカルパドゥルマンジャリー』（Amnayakalpadrumanjari, 『如意樹としての口伝の花房』）第1篇の校訂・訳注研究である。本書は『サンブトードバヴァタントラ』に対する注釈であるが、特定の流派・聖典を超えて数百年にわたるインド密教の叡智を集約したものとして位置付けられ、インド・チベットにおける注釈文献の成立に関しても重要な意味をもつ。本研究では直接的に関連するインド・チベット選述文献をも射程に入れて同書の基本的性格を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題はインド・チベット仏教文化圏においてもっとも大きな影響を与えた学僧のひとりであるアバヤーカーラグプタ（Abhayakaragupta, 11世紀後半～12世紀前半）の著作の解析を手掛りにインド世界において注釈文献の発展とともに培われた情報統括機能に注目し、校訂・訳注制定作業を通じてインド・チベットにおける知的伝承過程の実像を明らかにしようとするものである。日々増え続けていく膨大な情報をいかに効率よく格納し、どのように迅速に取り出すことができるのかは、人類にとって共通の関心事であるが、書式スタイルとしての問題に加え、写本における物理記憶媒体としての問題をも射程に入れて構造を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research project is the construction on the edition and annotated translation study of the first volume of the Amnayakalpadrumanjari ('The Cluster of Oral Tradition as a Wonder-Tree'), an encyclopaedic commentary on Indian Tantric Buddhism by Abhayakaragupta (late 11th - early 12th century). Although this is a commentary on the Samputhodbhavatantra, it is positioned as a synthesis of several hundred years of Indian Tantric Buddhism's wisdom that transcends specific schools and scriptures, and has important implications for the establishment of commentary literature in India and Tibet. The present study has clarified the basic character of the scripture based on new founded Sanskrit-Tibetan bilingual codex, including the directly related Indo-Tibetan commentary literatures.

研究分野：インド・チベット仏教学

キーワード：インド・チベット密教注釈文献 アバヤーカーラグプタ 『アムナーヤマンジャリー』 『アムナーヤカルパドゥルマンジャリー』 『サンブトードバヴァタントラ』 プトゥン・リンチェントゥブ インドラプーティ ヴィールヤヴァジュラ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

インド学・仏教学にとって不可欠な梵文写本の研究は情報技術の発展にともなって急速に進展し、膨大な写本の電子化が世界各地で進められてきた。東京大学附属図書館サンスクリット写本データベース（東京大学）、NGMCP (Nepalese-German Manuscript Cataloguing Project、ハンブルク大学)、Sanskrit Manuscript Project (ケンブリッジ大学) などの研究機関が精力的に写本のカatalog・画像データ化を推進する一方で、人文情報学 (Digital Humanities) の技術を利用した **Bauddhakośa**、**SAT-RBIB** (SAT-Research Base for Indian and Buddhist Studies)、**ITLR** (Indo-Tibetan Lexical Resource) の活動も進められている。一次資料の情報共有化に関わる流れのなかで、**SARIT** (Search and Retrieval of Indic Texts) のように原典資料の基本的な構造を軸に個別の箇所  
の解釈・異読・引用などの付随情報をマークアップ言語によって視覚化する **TEI** の活用が、近年の人文学における重要課題の一つとなっている (下田・永崎 [2010]、高橋 [2010]、苔米地 [2014])。しかしながらマークアップ化を行う前提としてはあくまで写本を含めた一次資料を読み解く校訂・訳注作業が求められ、それ無くしては成立しえない。なかでもインドの古典資料を扱ううえで注釈文献の内容構造を解析することは必要不可欠と言える。

インドにおける注釈文献の傾向と内容については仏教タントラ (密教) 文献にもとづき **Harunaga Isaacson**・**Francesco Sferra** 両教授によって概要が明らかにされている (Isaacson-Sferra [2015])。すなわち、①tippanī、②tikā、③nibandha、④pañjikā、⑤paddhati、⑥vivaraṇa、⑦vivṛti、⑧vṛtti、⑨vyākhyā、⑩bhāṣya、⑪vārttika というこれらの一般的に注釈に相当する語のうち、⑩⑪は密教には見出されず顕教あるいは他のヒンドゥー諸派の間で用いられ、②⑦は比較的長く、①④⑧は比較的短い解説の傾向にあるものの、密教においては②④はしばしば同義語として用いられる。さらに解釈の際に用いられる基準が 1) **uddeśa**・**nirdeśa**、2) **pratyuddeśa**・**pratīnirdeśa**、3) **mahoddeśa**・**mahānirdeśa** という聖典分類法に関わる三つの解釈階梯である。1) が根本・略出聖典による説示、2) が聖典の釈説・語釈 (④)、3) が引用を含めた詳細な解説 (②) に当たると説明されるが、2) が 1) に付随する聖典・釈タントラを指す場合もある。そして、密教注釈文献を扱うためには、前提として仏教内におけるその性格を明らかにしたうえで仏教以外の文献をも視野に入れる必要がある。**Alexis Sanderson** 教授によって指摘されているように、低次から高次へと至るシヴァ教聖典と極めて類似した階層構造は密教の聖典分類法にも見出すことができ (Sanderson [1988, 1994, 2007, 2009]、片岡 [2008]、種村 [2010, 2013])、シヴァ教におけるこうした構造が、密教における聖典あるいは注釈文献の成立に関して影響を与えたとも考えられるからである。

## 2. 研究の目的

このような学術的な背景および問題点を踏まえて、本研究課題の主たる研究対象となるのがインド仏教最晩期に活躍した学僧**アバヤーカラグプタ** (**Abhayākaragupta**, 11 世紀後半-12 世紀前半) の手になる百科全書的密教注釈文献『**アームナーヤカルパドゥルマンジャリー**』 (**Āmnāyākalpadrumaṅjarī**、『如意樹としての口伝の花房』) である。第 1 篇に説かれた同書の骨子・「要義 (piṅḍārtha)」にはアバヤーカラが網羅した全 25 項目からなるインド密教の主要教説が挙げられており、これらの項目にしたがって同書の全体が構成されている。すなわち、第 1 篇の解析が『アームナーヤカルパドゥルマンジャリー』全体の内容を把握することにつながると言えよう。申請者は最近新たに発見され (苔米地 [2017]、田中 [2017])、サンスクリット・チベット訳が併記された梵蔵バイリンガル写本を利用してこれまでも校訂・訳注作業を継続的に進めており、第 1 篇についてはチベット語訳を中心に基礎的な作業をすでに終えていた。したがって本申請課題研究ではあらたに発見されたサンスクリット原典にもとづき、写本に含まれたチベット語訳ともあらためて対照することによって、『アームナーヤカルパドゥルマンジャリー』第 1 篇の校訂・訳注作業を期限期間内に完遂させ、得られた情報をできる限り電子化を通じて視覚化するとともに仏教内外の文献と比較・対照させることによってインド・チベット密教における注釈文献の基本的な性格を明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究の方法

本申請研究課題は、基本的に一次資料を詳細に解析し、精密な校訂・訳注を制定する文献学的手法にもとづくものである。具体的には『アームナーヤマンジャリー』第 1 篇の校訂・訳注作業を完遂し、出版・公開できる状態へ原稿を仕上げることを一次的な到達目標とする。上記で述べたように、同書は「要義」に説かれた主要 25 項目にもとづく「篇」構造によって全体の骨格が成り立っているが、この基本的な構造を軸とし個別の箇所についての解釈・異読・引用などの付随情報をマークアップ言語を用いて入力することによって、文献情報の視覚化をはかることが二次的な目標となる。

アバヤーカラグプタ自身による著作を含めて顕密双方にわたる膨大な引用部分が『アームナーヤカルパドゥルマンジャリー』には含まれているが、新たに見出された梵蔵バイリンガル写本に依拠した同書全体の校訂・訳注作業と並行して引用典籍の比定作業が苫米地等流博士・Isaacson 教授を中心とした国際プロジェクトによって進められている(苫米地[2017, 2018ab])。申請者も連携してこの新出写本にもとづいて自身の作業を進めてきており、XMLの入力作業についても随時に専門家に意見を求めてこれまでデータ構築にあたってきた。

#### 4. 研究成果

研究計画調書において当初に出版あるいは公開を予定していた具体的内容は以下のとおり：  
1) イントロダクション：1・1) インド密教におけるタントラ聖典の伝承過程ならびに密教注釈文献の基本的性格、1・2) アバヤーカラグプタの活動とその著作、1・3) 写本情報、校訂方針、チベット語訳の翻訳状況、2) アバヤーカラグプタ著『アームナーヤカルパドゥルマンジャリー』第1篇校訂・訳注研究、3) 『サンプトードバヴァタントラ』ヴァース・インデックス＋注釈中の位置対照表、4) 原語(サンスクリット・チベット語)索引＋密教術語に関する語彙解説、5) 語形・韻律・文法解説、6) 事項索引、7) 文献一覧。

上記のうち、3) から6) に関しては申請時以降に『サンプトードバヴァタントラ』に対するあらたな校訂と英訳が発表され、研究が劇的に進展したことから、当初の予定から大幅な修正が必要となっているものの、本研究課題の中核と言うべき1)・2) の『アームナーヤカルパドゥルマンジャリー』第1篇校訂・訳注研究に関してはほぼ予定していた計画通りに原稿をまとめることができ、その成果の一部はすでに出版もなされている。また、プトウン・リンチェントゥブの手になる『サンプトードバヴァタントラ』注の研究は計画当初は『アームナーヤカルパドゥルマンジャリー』の補助的研究に過ぎなかったが、こちらについても本課題において研究が大きく前進し、成果の一部をすでに出版している。

これらの成果に加えて、2020年3月8日・9日両日にはハンブルク大学アジア・アフリカ研究所にて国際シンポジウムならびにワークショップを開催した。そこで得られた知見は上記の原稿に反映させ、まとまったかたちで公開する予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 菊谷竜太	4. 巻 10
2. 論文標題 「ヤショーバドラ『金剛句心髓集難語釈』について」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Bauddhakosa Newsletter No. 10	6. 最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊谷竜太	4. 巻 10
2. 論文標題 ヤショーバドラ『金剛句心髓集難語釈』について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Bauddhakosa Newsletter	6. 最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊谷竜太	4. 巻 18
2. 論文標題 疫病とブッダ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 白眉だより	6. 最初と最後の頁 17-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kikuya Ryuuta	4. 巻 特集号
2. 論文標題 Usu (有相) to Muso (無相), Sign(nimitta) and Signlessness(animitta)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 高野山大学密教文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 全20ページ（予定）
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 菊谷竜太
2. 発表標題 ヘールカとジュニャーナパーダ
3. 学会等名 印度学宗教学会第63回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菊谷竜太
2. 発表標題 『普賢成就法』と『四百五十頌』 - 『成就法の花環』所収の「文殊金剛成就法」について
3. 学会等名 日本密教学会2022年度学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菊谷竜太
2. 発表標題 『成就法の花環』所収の「文殊金剛成就法」について
3. 学会等名 密教研究会2022年度学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ryuta Kikuya and Daisy Sze Yui Cheung
2. 発表標題 A Preliminary Survey on a Sanskrit Manuscript Folio of an Anonymous Commentary to the Sardhatrisatika/*Lokalokakarika of Dipamkarabhadra
3. 学会等名 密教研究所2022年度研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 ブツダと疫病
3. 学会等名 印度学宗教学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 根本説一切有部と防護聖典
3. 学会等名 印度学宗教学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 ラトナーカラシャーンティとダルモットラ
3. 学会等名 密教研究会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 フィロロジカル（文献学的）に曼荼羅を研究すること
3. 学会等名 聖フランシスコ・ザビエルの書簡に基づく宗教間対話研究プロジェクト研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 Mandala and devatayoga
3. 学会等名 聖フランシスコ・ザビエルの書簡に基づく宗教間対話研究プロジェクト研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 ヴァイシャーリー疫病消除説話と密教聖典
3. 学会等名 新「プラフマニズムとヒンドウイズム」第3回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 ヴァジュラーヴァリー曼荼羅集について
3. 学会等名 日本チベット学会第68回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 疫病とブッダーインド仏教における防護聖典と呪文効用定型句
3. 学会等名 京都大学こころの未来研究センター・上廣倫理財団寄付研究部門2020年度研究報告会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 Scripture and Commentary, The Transmission of Mahamantranudharini in Indian Tantric Buddhism
3. 学会等名 Studies on Buddhist Monastic Culture (マルティン・ルター大学共催による日独連携国際シンポジウム) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 インド密教における注釈文献の伝承について 『四百五十頌』を中心に
3. 学会等名 令和元年密教研究会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryuta Kikuya
2. 発表標題 Light of the World, The Transmission of Guhyasamajamandalavidhi/Lokalokakarika-mandalopayika/Sardhatrisatika from Jnanapada and Dipamkarabhadra to Abhakaragupta via Ratnakarasanti
3. 学会等名 Colloquium of Department of Indian and Tibetan Studies in Hamburg University
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 インド密教における曼荼羅儀軌と注釈文献
3. 学会等名 インド思想史学会第26回学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 INTERNATIONAL WORKSHOP AND SYMPOSIUM AT HAMBURG UNIVERSITY, Toward a Construction of an International Network of Sanskrit Manuscript Study	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------